

# 肥効調節型肥料を利用することで、リンドウの定植時に 2年分の施肥を1度に行うことができる

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

部門名 花きーリンドウー施肥法

担当者 星太介、鈴木宏和

## I 新技術の解説

### 1 要旨

リンドウは定植後2年間の株養成期を経て3年目から本格的な収穫となるが、定植1年目の吸肥量は少なく、2年目は収量が少ないにもかかわらず追肥等の管理が必要となる。そこで、岩手県で開発された技術を基に、初期の肥料成分の溶出を抑えた肥効調節型肥料を定植時に2年分施用することにより、本県育成リンドウ品種においても施肥量の低減と定植2年目の追肥作業を省略できることを明らかにした。

- (1) 2年分施肥区では、肥効調節型肥料(商品名:LPS200)、苦土重焼燐、ケイ酸カリを、窒素、リン酸、カリの成分量でそれぞれ14-21-14(kg/10a)を定植時に施用し、2年目の追肥を行わなかった結果、株養成期の施肥量が慣行区と比較して窒素成分で約22%の減肥となった(表1)。なお、3年目は慣行区と同様の施肥量とした。
- (2) 本県育成リンドウ品種「ふくしまさやか」、「ふくしましおん」、「ふくしまほのか」では、生育(2021年、2022年)及び切り花品質(2023年)について慣行区と比較した結果、ほとんど差が見られなかった(表2、表3)。
- (3) 定植3年目の規格別割合については各品種、各試験区ともに60cm以上の規格が90%以上であり大きな差は見られなかった(図1)。

### 2 期待される効果

- (1) 株養成期の労力を軽減できることから、本県育成リンドウ品種の作付拡大に寄与できる。

### 3 適用範囲

- (1) リンドウ産地

### 4 普及上の留意点

- (1) 土壌や気象の条件によっては、肥効が変わることも考えられるため、葉色や生育状況に応じて適宜追肥等の対応を行う必要がある。

## II 具体的データ等

表1 基肥及び追肥の量(2021~2022年)

区	肥料名	施肥量：N-P-K (kg/10a)			
		定植時	2年目	計	N成分量
慣行区	花卉専用888肥料	8-8-8	6-6-6	18-21-18	18 (100%)
	苦土重焼燐	0-7-0			
	NK化成2号(礼肥)		4-0-4		
2年分 1回施肥区	LPS200	14-0-0		14-21-14	14 (77.8%)
	苦土重焼燐	0-21-0			
	ケイ酸カリ	0-0-14			

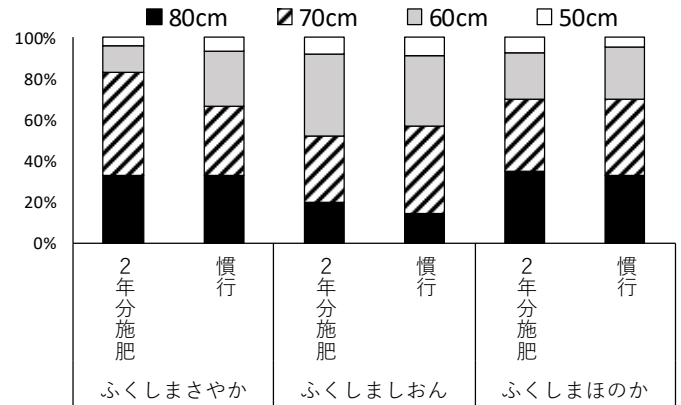


図1 定植3年目の規格別割合

表2 定植1年目の生育(2021年11月11日)及び定植2年目の生育(2022年)

品 種	区	定植1年目			定植2年目	
		草丈 (cm)	節数 (節)	茎数 (本)	草丈 (cm)	節数 (節)
ふくしまさやか	慣行区	41.9	12.9	3.0	102	25.2
	2年分施肥区	37.4	12.4	3.7	98.5	25.1
ふくしましおん	慣行区	49.7	18.3	2.7	114.9	29.3
	2年分施肥区	45.3	17.6	2.6	116.3	29.4
ふくしまほのか	慣行区	36.7	16.0	3.0	131.7	32.7
	2年分施肥区	37.8	15.5	3.2	128.3	31.5

※2022年の生育調査日は、ふくしまさやか7月14日、ふくしましおん8月16日、ふくしまほのか9月1日

表3 定植3年目の切花品質(2023年)

品種	区	切り花長 (cm)	花段数 (段)	側枝数 (本)	葉長 (cm)	茎径 (mm)	採花期間*
ふくしまさやか	慣行区	73.9	5.6	1.4	9.0	3.8	7月7日~21日
	2年分施肥区	76.2	5.8	2.9	9.0	3.9	7月7日~25日
ふくしましおん	慣行区	70.7	5.2	0.1	7.2	3.0	8月2日~16日
	2年分施肥区	70.8	5.3	0.0	7.0	3.1	8月2日~16日
ふくしまほのか	慣行区	74.4	5	0.9	6.6	3.3	8月21日~9月14日
	2年分施肥区	75.3	5	0.2	6.6	3.2	8月21日~9月14日

※採花期間：1本目の収穫日から最後の収穫日

## その他

### 1 執筆者

星太介

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3~7年度

(2) 研究課題名 ふくしまの特色ある露地花きの安定生産技術の確立

### 3 主な参考文献・資料

(1) 岩手県農業研究センター, リンドウの肥効調節型肥料(シグモイド型)を利用した株養成期間の低コスト施肥法